

## 2008 Study Tour 新竹サイエンスパーク (Hsinchu Science Park) 訪問記録

### 概要

日時： 2008/09/16(Tue), 16:00-17:00

場所： 新竹サイエンスパーク 管理局

No. 2, Hsin-Ann Rd., Hsinchu Science Park, Hsinchu, 300, Taiwan, R.O.C.



<http://eweb.sipa.gov.tw/en/UserFiles/Image/photos/images/IMG0034.jpg>

担当者： サイエンスパーク担当者 1名

議事： 新竹サイエンスパークの紹介、質疑応答

## 新竹サイエンスパークの紹介

- 1980年の設立。国家科学委員会の管轄
- 新竹サイエンスパークの面積：656ヘクタール。近くにサテライトを作って拡大している
- 新竹以外にも台南サイエンスパーク、中部サイエンスパークがある
- 半導体、情報と周辺機器、通信などが中心。
- 国内外のハイテク産業の誘致を行っている。
- サイエンスパーク内の企業数：441社
- 米国企業：アプライドマテリアルズ、など。
- アジア企業：信越オプト、HOYA、ULVAC、ユアサ、など。
- 就業者数 設立当初4500人 → 現在13万人
- 平均年齢30歳、男性55%、高学歴社が多い(最低限、専門学校卒が必須)
- 平均年齢が若いのは、給与も高いが、労働時間が長い。お金を使う暇がない。→サイエンスパークを離れる人が多い。台北にある本社や、中国に行く人が多い。
- 新竹サイエンスパーク内の産出は、台湾のGDPの5%を占める。また、これは台湾の製造業の収益の10%である。
- サイエンスパーク内のインフラ整備：土地、道路、水道水、電気、通信ネットワーク、汚水処理システム、保全の整備を行っている。
- 公共施設：社員寮、実験的な中学校、郵便局、銀行、病院、ガソリンスタンド、テレコムサービス、標準化された工場、レジャーなどがある。
- 優遇策と関連サービス。政府の施策も含め、以下のようなサービスを提供している。
  - 5年間の租税の減免
  - 輸入税、貨物税、営業税の免除
  - 窓口一本化のサービス
  - 自動通関サービス、など。
- 国に属する研究所として、国家ナノデバイスラボラトリーもサイエンスパーク内にある。
- 清華大学、交通大学は労働者の供給という観点で、サイエンスパークにとって、重要なファクターである。
- 製品別割合としては、半導体が72%、光電子が14%を占める。
- 台湾IT産業の25%が新竹サイエンスパークにある。
- 輸出で多いのは中国、香港、日本の順輸入では日本、アメリカ、シンガポールの順。
  - 日本からは製造機械、シリコンの輸入が多い
- 特許数は、台湾全土の11%を占める、米国でも四位

- ・ PC 指向(マウスなど) → IC 指向(半導体) → イノベーション指向に変化してきている。
- ・ イノベーション、高付加価値、エコが最近のキーワード。
- ・ 管理局としては、サイエンスパークをレジャー公園にしたいと考えている。  
例)パーティーを行って結婚相手を見つけることや、グループ・ウェディングなど
- ・ 世界各地に 24 個の姉妹パークがある。日本では横須賀(YRP)、北九州が該当する。

## 質疑応答

Q. 管理局の経費はパークに入っている企業が負担しているのか？ それとも政府か？

A. サイエンスパークの費用は、企業の利益で運営されている。

企業は、利益の 0.19%を出さなければいけないことになっている。

サイエンスパークからの質問

Q. 日本のサイエンスパークはどのような状況？

A. サイエンスパークは存在するが、うまくいっていない。政府がパークを作って企業を呼ぶ、ということをやあまりしなかった。企業が自ら集まって、作ることが多い。それが原因と考えられる。

Q. 今は半導体が主力であるが、これからは何が成長するのか？

A. 光電子産業と考えている。例えば AUO は景気が良く、今年 5000 人雇っている。

Q. リクルーティングについて。管理局は何かやっているのか？

A. 体験イベントなどを行うお金を出している。大学、管理局、企業は連携している。

Q. 外国人の技術者についてはどうか？

A. 記録では 5000 人(実際はもっと多い)。ただし、レベルの高い仕事に従事しているのは、700 人くらいしかいない。書類を提出すれば、管理局でも仕事を斡旋してくれる。

Q. サイエンスパークに進出する際に制限はあるか？

A. ハイテク産業でなければならないが、それ以外には特はない。ただし、発展性は必要。

Q. 管理局が企業に対する投資をすることはあるか？

A. 管理局は投資はしない。

Q. 製造に特化しているのはなぜ？

A. 国民性が大きいと考えるが、台湾人は製造業のように実際に目に見えるものを作って、

お金をもらえる方がよい。

Q. 13万人働いているが、みんなどのくらいの時間をかけて通っているのか？

A. 1時間くらいかけて台北、台中から通っている人が多い。朝夕は近辺は渋滞が発生する。

Q. 台北から通っている人について。なぜ台北に住み続ける人が多いのか？

A. 新竹にはずっと住みたくないと思っている人が多い。いつかは台北に戻りたいと思っている。

以上